

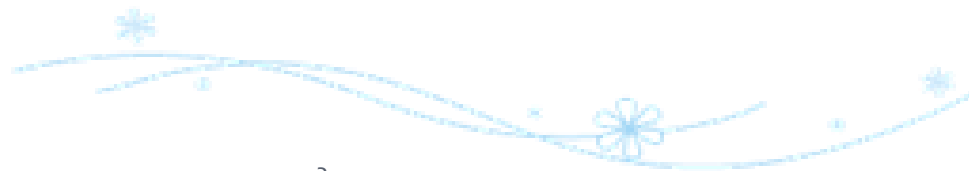
和痛分娩 オリエンテーション

JCHO北海道病院 産婦人科

R8年9月改定

当院の和痛分娩

麻酔科医協力のもと和痛分娩を行っています。
そのため、計画外の和痛分娩は行えません。
また、和痛分娩のため陣痛の痛みを和らげますが、完全にはなりません。
上記をご了承をお願いします。



入院前の準備

- ネイルを外してください。
- 指輪やアクセサリー類は外してください。
- 和痛分娩当日はノーメイク、コンタクトを外してください。
必要な方はめがねをご持参ください。

入院後の流れ

- ・4階ナースステーションへお越しください。
- ・病衣に着替えます。
- ・胎児心拍モニターを行います。
- ・診察を行い、必要時子宮の入り口を広げる処置を行います。
- ・麻酔科医から分娩当日の麻酔について説明があります。
- ・変わりがなければ次の日の朝までお部屋で過ごしてもらいます。

分娩当日の朝

- 体調チェックをします。
（体温、血圧測定、問診）
- 7時に軽食を食べて、それ以降は絶食です。
- 飲水は可能です。
- 手術着に着替え、分娩室(LDR)に移動します。
- 分娩室で胎児心拍モニターをつけます。
- 8:30頃、医師の診察後、誘発分娩を始めます。
- 子宮口の状態によっては早めに誘発する場合があります。

分娩当日

- 9時に分娩室で背中に麻酔のチューブを入れます。
- 麻酔中は、心電図モニターを装着します。
- ベッドの上で横になり背中を丸くして、
麻酔のチューブを入れていきます。
- 麻酔の効き方、副作用を確認します。



*** 足の力が入らなかつたり、足の感覚が鈍くなる場合は転倒する可能性があるため、初めての歩行は必ずスタッフが付き添います。**

硬膜外麻酔による副作用

- 足の力が入りにくなる。
- 血圧が下がる。
- 排尿感が弱くなる。
- 体温が上がる。
- 吐き気が出る。
- かゆみが出る。

* これらは一時的なもので、薬効が無くなれば消失します。

* 赤ちゃんへの副作用はほとんどないといわれています。

*** 気になる症状がありましたら、スタッフにお知らせください。**



分娩中

- ・胎児心拍モニターを継続してつけます。
- ・麻酔のチューブが入っている部分に異常がないかみせてもらいます。
- ・陣痛が強くなり、子宮口が開いてきたら硬膜外麻酔を開始します。

*** 痛みがあっても分娩進行状況によっては麻酔を使用せず様子を見ることがあります。**

分娩中

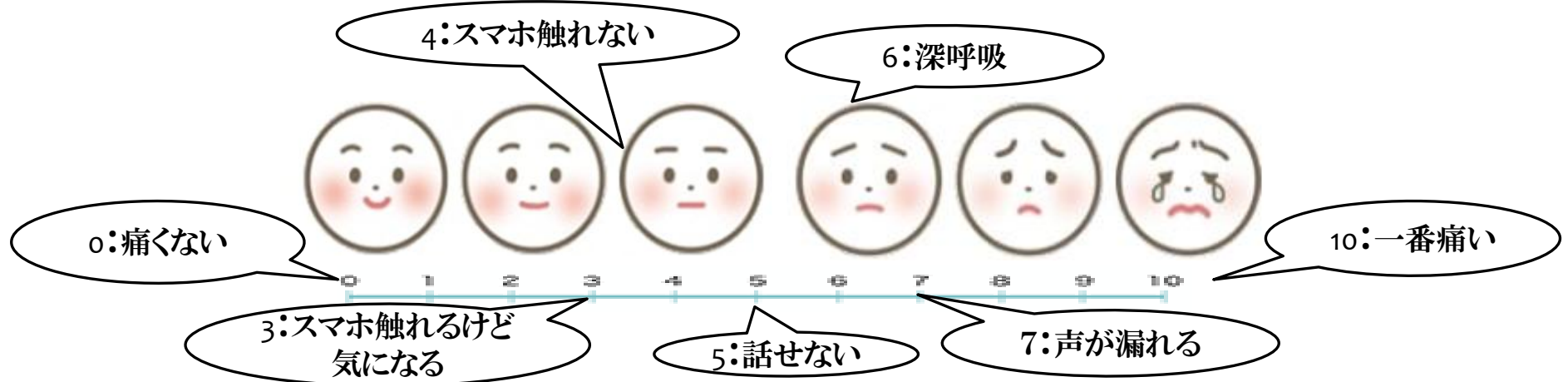
- ・麻酔使用中は、心電図モニターを装着し、定期的に血圧測定をします。
- ・麻酔使用中は、分娩台の上で過ごします。
- ・歩行は転倒の危険があるため、トイレの際は管で尿をとります。

分娩中

- ・麻酔を使用しても、分娩進行を妨げず、いきめるように痛みはある程度残します。

- ・こまめに痛みの確認をします。

* 想像できる最悪の痛み(前回のお産の一番痛いとき)を10とするならいくつかで確認します。



分娩中こんなときはナースコール

- 口周りが痺れる
- 耳鳴り
- 意識が遠のく
- 金属の味がする
- 痛みが急に強くなる
- おしりが押される感じ、「うんち」にいきたい感じ、いきみたい感じがある。
- めまい
- 落ち着かない気持ち
- 息苦しい
- 痙攣
- 足が動かしにくい



まずは、ナースコールしてください。

分娩におけるリスク

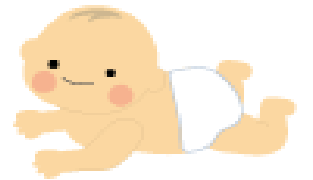
- ・赤ちゃんが生まれてくるまでの時間が長くなり、赤ちゃんが生まれる際、吸引などの機械を使う頻度が高くなります。
- ・児が生まれる際に多くのスタッフや医師が携わります。

初産婦の場合

- 初産婦は1日目で生まれない場合、麻酔のチューブを入れたまま夜間を過ごします。
- 分娩の進行があっても夜間は和痛分娩を行いません。
- 2日目の朝食は分娩の進み具合によって、食事内容を変更する場合があります。その都度ご説明します。
- 8時30分以降に診察後、誘発分娩を開始します。

産後

- ・分娩終了後、麻酔のチューブを抜きます。
- ・産後2時間は分娩室で体調確認します。
- ・体調変化しやすい時期なので、ベッド上で安静にしてください。
- ・体調が問題なければスタッフの付き添いのもとトイレ歩行します。
- ・体調や歩行に問題がなければ、お部屋に移動します。



最後に

何か心配事や不安がありましたら、
いつでもスタッフにご相談ください。

